寄贈図書リスト

ハッブル望遠鏡が見た宇宙
野本陽代, R. ウィリアムズ著, 新聞刊, 212 p., 940 円, 岩波書店, 読み物

月報だより

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下
さい。結果は必ずお知らせください。
1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・
所属講座、(2) 労務地、3. 部門分野、4. 職務内容・
担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、
7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出
先、(2) 間合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待
遇など）

すばる望遠鏡 研究員
1. ポストドク研究員 2 名
   a) 望遠鏡観測装置 立ち上げ担当
      1 名（position ID#175）
   b) 広報プログラム担当
      1 名（position ID#176）
2. (1) 国立天文台 ハワイ観測所
   (2) 国立天文台 ハワイ観測所
3. 光学赤外線観測所、天文工学
   5. (1) 決定後、できるだけ早い時期 (2) 3 年間
   6. 天文学士以上関連分野での博士号（採用時点で取得
       していること）
   8. 1997 年 8 月 1 日
   9. (2) 日本側の問い合わせ先：国立天文台 林 正彦
       Tel 0422-34-3611 Fax 0422-34-3608
      ただし応募書類は英文にて下記の宛先に送付、1997 年
      8 月 1 日必着のこと。その他の詳細については、下記の
      英文の原文を参照下さい。
   a) Postdoctoral Fellow ID#175
      RCUH/NAOJ Subaru Telescope Project
      Fixed term three year appointment (possibility of extension)
      by Research Corporation of the University of Hawaii (RCUH)
      with Subaru Telescope Project, National Astronomical
      Observatory of Japan (NAOJ), located in Hilo, Hawaii.
      Duties include: Pursue a program of astronomical
      research, publish and present results at conferences.
      Participate actively in laboratory and field tests of the
      Subaru telescope and its instruments and support facilities.
      Substantial work will be required with a significant amount of
      time being spent at the telescope site (at a high altitude,
      14,000 feet). The successful candidate can expect to be
      transferred to the operations team of the Subaru telescope
      after its completion expected in the year 2000.
      Qualifications: Candidate should have a recent Ph. D. in
      astronomy or related field. Experience observing at optical
      and/or infrared wavelengths including use of two dimen-
      sional detector arrays. Experience using astronomical soft-
      ware, including packages for instrument control and astro-
      nomical data reduction. Ability to undertake independent
      program of observational astronomical research. Good
      written and oral communications skills in English. Possess a
      valid driver's license and able to operate four wheel drive
      vehicles. Must pass a high altitude physical examination
      and work at a high altitude (14,000 feet).
      Application Requirements: Send cover letter (note Recruitment
      No.) with narrative on your qualifications for the
      position, a curriculum vita and an outline of proposed
      research including its relation, if any, to ongoing research
      at NAOJ Subaru Project to the Director of Human Resources,
      Research Corporation of the University of Hawaii,
      2530 Dole Street, Sakamaki Hall, D-100 Honolulu,
      HI 96822. Candidates should also request that confidential
      letters of recommendation be sent directly to us by three
      scientists who are familiar with the applicant’s work.
      Complete applications and all letters of reference should
      be received by 1 August 1997.
   b) Postdoctoral Fellow (Public Relation)ID#176
      RCUH/NAOJ Subaru Telescope Project
      Fixed term three year appointment (possibility of extension)
      by Research Corporation of the University of Hawaii
      (RCUH) with Subaru Telescope Project, National Astro-
      nomical Observatory of Japan (NAOJ), located in
      Hilo, Hawaii. The successful candidate will be expected to
      carry out scientific research and also is expected to spend
      minimum 50% of time in establishing the public relation
      programs of the Subaru Telescope at Hilo, Hawaii. Participat-
月報だより

ing in laboratory and field tests of the Subaru telescope and its instruments is encouraged. Some of the work will be required with a significant amount of time being spent at the telescope site (at a high altitude, 14,000 feet). The successful candidate can expect to be transferred to the operations team of the Subaru telescope after its completion expected in the year 2000.

Qualifications: Candidate should have a recent Ph. D. in astronomy or related field. Experience observing at optical and/or infrared wavelengths including use of two dimensional detector arrays. Experience using astronomical software, including packages for instrument control and astronomical data reduction. Ability to undertake independent program of observational astronomical research. Good written and oral communications skills in English. Possess a valid driver's license and able to operate four wheel drive vehicles.

Application Requirements: Send cover letter (note Recruitment No.) with narrative on your qualifications for the position, a curriculum vita and an outline of proposed research including its relation, if any, to ongoing research at NAOJ Subaru Project to the Director of Human Resources, Research Corporation of the University of Hawaii, 2530 Dole Street, Sakamaki Hall, D-100 Honolulu, HI 96822. Candidates should also request that confidential letters of recommendation be sent directly to us by three scientists who are familiar with the applicant's work.

Complete applications and all letters of reference should be received by 1 August 1997.

国立天文台 COE 研究員

1. 研究者 4 名 今回は、電波電波分野 3 名、するブ プロジェクト分野 1 名の募集である。

2. 就・研究者 東京電波分野 45m 望遠鏡、ミリ波干涉計、レイ ヴンボウ計画など高度化プロジェクトに従事し、電波 天文分野における先端的な観測研究を推進する。

(2)勤務地：長野県長野市長野市町

3. (1) するブプロジェクト 建設中の電波電波分野望 遠鏡「するブ」のプロジェクトに従事し、各種の 技術開発・試験・観測・研究を推進する。(2)勤務地：当面は東京都三鷹市、あるいは岩手県小湯 郡湯方町、将来はハイ台灣務もあり得る。

5. (1) 決定後可能な限り早い時期 (2) 原則として 2 年 （特別の事情のある時は 1 年延長を可とする）

6. 博士の学位を取得または平成 9 年 7 月 31 日までに 取得見込みのもので、平成 9 年 8 月 1 日現在 35 歳 未満のもの

7. (1)履歴書、(2) 研究歴・研究業績概略、(3) 研究論文 リスト、及び主な論文別刷 (共著の場合は本人の役割 を明記のこと)、(4) 研究計画書、(希望の分野・プロ ジェクトを明記のこと) (5)推薦書 (ある場合は添付)

8. 平成 9 年 7 月 11 日(金) (当日消印有効)

9. (1) 〒 181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台長 小平谷一

(2) 〒 181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台企画調整主幹 観山正見

TEL 0422-34-3738

10. 11. 封筒の内に「COE 研究員応募書類を中」と記し、簡易 書留でお送り下さい。別に公募する「国立天文台 研究員」に併せて応募する事は差し支えない。非常勤講師としての待遇、給与 (月額 30 万程度) を供する。

国立天文台非常勤研究員公募

1. 研究員（若干名）国立天文台において、開発、観 測、研究等に積極的で取り組み、先端的な研究を推 進する若手研究者を求める。以下に分野、及び勤務 地を掲げる。

2. (1) 電波電波学分野
(2) 主として長野県松本郡松本町

2. (1) 光学赤外線天文学分野
(2) 東京都三鷹市兼木一ノ丁目

2. (1) 一般分野及びその他の国際天文台の各分野にお いてそれぞれの研究を推進する。

2. (2) 勤務地は分野による（詳しくは問い合わせのこと）。

3. (1) 平成 9 年 8 月 1 日以降

(2) 原則として 2 年

3. 大学院修士課程修了、又は同等以上の学力を持つ者。

3. (1) 履歴書、(2) 研究歴・研究業績概略、(3) 研究論文 リスト（共著の論文については本人の役割を明記の こと）、及び主な論文別刷、(4) 研究計画書（希望の 分野・勤務地・受入れ教官名（予定）を明記のこと）

(5) 推薦書（ある場合は添付）

5. 平成 9 年 7 月 11 日(金) (当日消印有効)

9. (1) 〒 181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台長 小平谷一

(2) 〒 181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台企画調整主幹 観山正見

TEL 0422-34-3738

10. 11. 封筒に「研究員応募書類を中」と記し、簡易 書留でお送り下さい。別に公募する「国立天文 台 COE 研究員」に併せて応募する事は差し支えない。非常勤講師としての待遇、給与を支給する (詳細は上記に問い合わせのこと)。
研究助成

第5回日産科学賞候補者推薦について

上記の推薦依頼が天文学会にきておりますのでお知らせ致します。

日産科学賞候補者推薦要領
1. 趣旨
   若手・中堅の研究者で、特に顕著な業績にたいして表彰し、励ましと研究の発展を期待して支援する。
2. 推薦基準
   自然科学分野（人文・社会科学分野との複合領域を含む）で、下記により学術文化の向上発展に大きな貢献をした若手（平成10年3月時点）の公的研究機関に所属する研究者とします。
   a）学術研究上重要な発見をした
   b）新しい研究分野を開拓した
   ※45歳以下で上記基準に該当する方があらわれる場合は、優先的にご配慮願います。
3. 推薦者：貴学会の代表者
4. 推薦依頼数：1名
5. 賞の内容：正賞……賞状、メダル
   副賞……研究奨励金50万円（受賞者の研究のための助成金）
6. 発表：平成10年2月
7. 推薦手続：所定の用紙に必要事項を記入し、天文学会に提出して下さい。（用紙は天文学会に用意してあります）
8. 学会締切：平成10年3月31日（木）
9. 問い合せ：日本天文学会

第11回日本IBM科学賞について

日本天文学会に標記の案内がきております。その概要を知りたいことがあります。推薦書類は天文学会事務局に一覧からお申込み申出下さい。応募締切は8月15日（金）必着となっております。

名称：日本IBM科学賞
目的：わが国における基礎研究の振興と若手研究者の育成
候補者資格：
1）国内の大学あるいは公的研究所に所属し、研究活動の分野が、つぎのような領域に該当する基礎研究者（国籍は問わない）
   (1) 物理
   (2) 化学
   (3) コンピューターサイエンス
   (4) エレクトロニクス

2）平成10年8月15日現在満45歳以下であること
受賞人数：6名（6件）
推薦方法：国内の大学あるいは公的研究所に所属している方の推薦
選考：審査委員会により決定する
賞金：300万円（1件）
発表：推薦者を通じて通知（10月上旬予定）

ジェームス S. マックダネル財団
100年記念奨励研究費公募

若手研究者に対して以下のそれぞれの分野において1件100万ドル支給する。
● 天体物理学および宇宙論
● 認知科学
● 複雑系
● 人工の遺伝学
● 科学史、科学哲学
応募締め切り：1997年12月15日
応募要項はインターネットhttp://www.jsmf.org/centennialに示されています。

もしくは、直接電子メールでcentennial@jsmf.orgへ問い合わせるか、郵便でCentennial Fellowship Program, James S. McDonnell Foundation, 1034 South Brentwood Blvd, Suite 1850, Saint Louis, MO 63117 USAへお問い合わせください。

研究会・集会案内

郵政省通信総合研究所
平城寺宇宙環境センター一般公開のお知らせ

平城寺宇宙環境センターでは、太陽や地球磁気圏等の宇宙環境の研究を行っています。また、独自の観測データ及び人工衛星や世界各地の観測データを基にした太陽フレア、地震気象及び電離層の擾乱現象に関する予報を行っています。

一般公開でセンター内の太陽光学／電波観測施設等の見学の他、私どもが運用している宇宙環境情報サービスの体験コーナーも予定しております。
日時：7月20日(日)（海の日）10時～16時
場所：〒311-12茨城県ひたちなか市、鶴崎3601

福清宇宙環境センター（駐車場有）
交通：・常磐自動車道那珂川ICより車で30分
JR常磐線勝田駅よりタクシーで20分
JR常磐線水戸駅北口より茨城交通アボス浦

第90巻 第7号 333
共同利用・共同研究

宇宙環境利用に関する地上研究公募のご案内

国際宇宙ステーションの軌道上における組立の開始が間近になるなど、宇宙環境利用の本格的時代を迎えようとしています。宇宙環境では、微小重力環境など地上では得がたい環境の中で実験を実施することができます。

我が国は独自の実験機（JEM）*をもって、国際宇宙ステーション計画に参加しており、今後、国際宇宙ステーションが完成すると、このような宇宙環境利用の機会が飛躍的に拡大することになります。

一方、全国で展開されている広範な分野の研究活動と宇宙実験を効果的に結びつけていくためには、具体的な宇宙実験の提案・実施に至るまでの地上における関連研究の蓄積が必要です。

本制度は、このような認識の下に、実際にJEMを中心とした宇宙環境を利用してつつまとめる準備段階として、幅広い分野の研究者に研究提案を提供し、宇宙環境利用に関連する地上研究を推進することを目的としています。

* JEM：Japanese Experiment Module（宇宙ステーションの日本の実験機）

公募制度の概要

・大学、国立試験研究機関、民間企業などの研究者の方々を対象に幅広く研究テーマを募集します。
・財団法人日本宇宙フォーラム内に、有識者によって構成される委員会を設置し、応募された研究テーマの選定等を行います。
・研究形態：研究形態としては、委託研究、共同研究、招聘研究の3形態があります。
・研究期間：1年～3年
・実施施設、試験施設の提供

研究の必要に応じて調整の上、落成した、航空機の微小重力模擬実験施設等の利用機会を提供いたします。

スケジュール

・募集期間：平成9年5月中旬～平成9年7月10日（木）
・研究開始：平成9年10月初旬（予定）

問い合わせ先

財団法人日本宇宙フォーラム（JAPAN SPACE FORUM）公募研究推進部
担当：大西、北條
電話：03-3459-1653
FAX：03-5470-8426
URL：http://www.homepage.co.jp/jsforum
E-mail：koubo@jsforum.or.jp
会務案内

内地留学奨学金の希望者が募集します。

応募される会員は、下記要項と定款（内地留学奨学金に関する内規）をご参照の上、事前に受け入れ予定機関及び教官に申し入れが可能なことを確認して、応募して下さい。

留学期間：1998年1月から約1年の希望期間
申し込み：所定用紙に必要事項を記入し、「〒181 三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 日本天文学会理事長」宛に申し込んで下さい。（用紙は日本天文学会事務局に用意しております）

申し込み締切：1997年9月16日（火）必着
審査：当会奨学金選考委員会（内規第5条）で審査の上決定し、10月下旬本人に通知します。

奨学金：25万円額で、支給は予定は1998年1月となります。
人数：原則として1人、新入会を歓迎します。

内地留学奨学金選考委員長 緒方仁一哉

第17期日本学術会議天文学研究連絡委員会・委員候補者の選挙

上記選挙を以下の予定で実施いたします。

5月30日：有権者名簿締め切り
7月1日：正会員・有権者名簿と投票用紙を郵送
7月2日～8月1日：投票期間
8月4日：開票

投票方法は従来通り、日本天文学会正会員（有権者）による20名以内無記名選挙の郵送投票で行います。

庶務理事 柴田一成

天文研連委選改の選挙に当たって

天文学会研究連絡委員会委員長 尾崎洋二

今年7月22日から始まる第17期日本学術会議に関連して、9月に天文学会研究連絡委員会（略して天文研連と呼んでいます）の委員も改選されます。この選挙に当たって、天文研連の活動について簡単な報告するとともに、天文学会会員の皆さんが選挙委員候補者選挙に積極的に参加して下さるようお願いする次第です。

なお、日本学術会議および研究連絡委員会、専門委員会などについては、杉本前天文研連委員長による詳しい解説が、3年前の1994年8月号の天文月報に掲載されておりますので、そちらを参照して下さい。以下の記事

では上記解説と重複する部分もありますが、念のためもう一度記することにいたします。

1．天文学会研究連絡委員会について

日本学術会議は、1948年に定められた日本学術会議法に基づいて設立されました。学術会議は、科学の振興及び技術の発達に関する方策などについて、政府に勧告することに繋がることになっています。

学術会議のもとに、研究領域別、および課題別の研究連絡委員会と専門委員会があります。天文学会プロポーザルのものとしては、天文研連設立の中に設置されている天文学会国際共同観測専門委員会（本年より日食専門委員会から改名）があります。

天文研連の役割は、日本の天文学の将来計画などについて検討し、必要があれば勧告、対外報告などを行うこと、また日本学術会議が加盟している国際学術団体の一つである国際天文学連合（IAU）の国内委員会（National Committee for Astronomy）を兼ねています。実際、第17期の天文研連では、「21世紀に向けた天文学長期計画について」という研究対外報告をまとめました。

天文研連の委員数は、第16期までは定員22名でした。今年7月22日に新たに設立された惑星科学専門委員会（親研連は地球物理学研究連）に定員一名を供出した結果、第17期からは定員21名となります。

また、これまで天文研連の中に「日食専門委員会」（定員16名）が置かれてきました。日食観測は世界のさまざまな国で実施する必要があり、国際協力を必要とする分野でありましたが、近年、天文学の多くの分野で国際的な観測活動の必要性が増してきました。このため、日食観測事業だけでなく天文学分野での国際共同観測の諸問題を審議できるよう、専門委員会の名称を「天文学会国際共同観測専門委員会」を改名することとなり、これは今年7月22日に開催の学術会議の運営審議会において認められました。

2．天文研連委員候補者の選挙について

天文研連の委員候補者は天文学会から推薦していただきますが、分野や地域などに著しい偏りがある場合には、現在の天文研連で必要な調整を行った後に決めることに特異します。これまで、天文学会からの推薦にあたっては、委員候補者を天文学会正会員による選挙で選んでいただきており、今回も日本天文学会にこの選挙をお願いすることになりました。

学術会議は、第13期（1982～1985）に組織改革を行ない、それ以後は通算3期（9年）を越えて研連委員として在任することはできない、という規則が決められました。

ただし、次の一等には該当する場合は、例外としてこの制限は外されることになっています。（1）研連委員であった後に学術会議会員となったものの、会長の名を受けて再び研連委員となった（指名委員）場合、（2）学
術会議が参加している国際学術団体の役員である場合、
（3）研修の設置または活動に重要な役割を果たした者等、
その者を欠くと重大な支障が生じるおそれがある場合、
その他特別な事由がある場合となります。

天文研修の場合、（1）に該当するのは学術会議会員
（天文学）1名、（2）に該当するのは、IAUのコミッショ
ン・ブレジャント以下のIAU役員である場合で、その
方々には自動的に研修委員に当たっていただくこととなっ
ております。

前回の第16期からこの規定が実行された結果、天文
研修のメンバーが大幅に若返りました。今回の選挙に当
たっても、天文研修を通じて文学研究の一層の振興を
期して一人でも多くの会員の皆様の投票参加をお願いい
たします。

日本天文学会 1997年度春季年会報告

1997年度春季年会は3月20日(木)～22日(土)の3日間、
東京大学教養学部の講義室の5会場を使って開催され
た。口頭（10分）、口頭（3分）+ポスター、による発
表講演数はそれぞれ227、175であった。なおPost-dead
line papers講演は3件であった。今回の年会参加者は621
名と盛況で、江里口氏を中心とする東大学歴学部の方々
の努力で順調に行われた。各会場の座長は次の方々にお
願いした。

<table>
<thead>
<tr>
<th>会場</th>
<th>A</th>
<th>B</th>
<th>C</th>
<th>D</th>
<th>E</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1日目午前</td>
<td>谷川清隆</td>
<td>北本俊二</td>
<td>林正彦</td>
<td>坪井昌人</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>午前1</td>
<td>田中高佐</td>
<td>田中高佐</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>午前2</td>
<td>谷村敬之</td>
<td>長谷川哲男</td>
<td>岡崎敏夫</td>
<td>杉山直亮</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2日目午前</td>
<td>北村芳子</td>
<td>末松芳芳</td>
<td>夏川和義</td>
<td>杉山直亮</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>午前1</td>
<td>坂田太郎</td>
<td>谷村敬之</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>午前2</td>
<td>敬之</td>
<td>梅村雅之</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3日目午前</td>
<td>吉村宏和</td>
<td>上野孝</td>
<td>芝井広</td>
<td>谷口義明</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>午前1</td>
<td>恵</td>
<td>数</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

〈記者会見〉

春季年会の前日午後2時から、東京大学教養学部で記
者会見を行い、次の点について解説した。

★トピックス

1）南天の星形成領域を多数検出
—名古屋大学大望遠鏡セットでの初期観測成果の概要—
福井隆（名古屋大学理学部教授）他

2）赤色巨星周辺の温かい分子雲
—ISOにより見いだされた新しい分子形成領域—

辻隆（東京大学工学部教授）他

〈関連講演：P32a、N49a、N50a〉

〈通常総会〉

平成9年度の通常総会は、2月19日午後4時より開催され
た。体発見賞の贈呈、日本天文学会林忠四郎賞・天文
報告論文賞の贈呈について、平成8年度会報報告、会
計報告が行われ承認された。さらに、日本天文学会定款、
平成9年度事業計画、平成9年度予算案が承認された。
続いて日本天文学会役員（1997-1998）が選任された。
総会出席者は103名であった。

〈天文教育フォーラム〉

3月20日午後3時から、天文教育普及研究会との共催に
よる天文教育フォーラム「学校5日制、駅前教室形態の
天文教育はどうなる？」が開催された。林村龍治氏、小
杉松郎氏、水野孝雄氏らの報告のあと、多くの質問報告。

〈懇親会〉

2月19日午後6時から、東大発表ホールを利用して行い
れ、約180名の参加者があった。(株)五島プラネタリウ
ム、(株)エイ・エスからののご好意もあり大変盛り
上がった。

〈公開講演会〉

3月23日(日)午後2時より東京大学教養学部で行った。講
師および題目は

「宇宙空間における宇宙」

講師は：家正則（国立天文台教授）
「星団と銀河の進化」

講師は：杉本大治郎（東京大学教授）

での講演では、現在の最前線の観測と、近い将来完成予定のすばらしい望遠鏡による宇宙様の広がりにつ
いて、ビデオを交えたわかりやすく話された。杉本氏の
講演では、星団、銀河の進化を、この分野の研究に
おけるユニークな計算機サイエンスの成果をふまえて、自然科学の幅広い観点から解説された。

〈保育室〉

天文学会としては初めての試みである保育室は、講演会
場に隣接した11号館に設置された。3日間での約6人の
子供の利用があった。シッターさんの派遣は、ファミ
リーサポート(株)に依頼し、部屋にはベビーベッド等の準
備をした。利用者からは「保育室があるので、安心して
学会出席ができた」などの感想が聞かれた。詳しい報告
は学会のホームページにある。なお、天文学会と同様に
保育室設置を考えている他学会会員のために、設置につい
ての情報をホームページで公開している。

（年会実行委員長：加藤万里子）
平成9年通常総会報告

平成9年の通常総会は3月21日（金）16時より開催された。会員103名が出席した。
議長：理事長 栄木大二郎
総会次第
1. 開会
2. 天体観察賞贈呈の件
3. 日本天文学会林 忠四郎賞・欧文報告論文賞の贈呈
4. 平成8年度会務報告 [資料1]
5. 平成8年度会計報告 [資料2]
6. 日本天文学会定款
7. 平成9年度事業計画書 [資料3]
8. 平成9年度予算案 [資料4]
9. 日本天文学会役員の選任 [資料5]
10. その他

天体観察賞贈呈
評議員会の議決に基づき定款第6条を修正し、10件20件に天体観察賞を改称し、天体観察賞を設置する件を提案し、満場一致で可決された。
○天体観察賞4名
1）青木昌勝氏：
   NGC 1084 に出現した超新星1996年11月の発見
   NGC 5584 に出現した超新星1996年2月の発見
   NGC 5000 に出現した超新星1996年2月の発見
   NGC 3510 に出現した超新星1996年2月の発見
2）佐々木俊司氏：
   NGC 5673 に出現した超新星1996年2月
3）櫻井幸夫氏：
   いわ座星1996年の発見
   いわ座星状天体「桜井天体」を発見
4）串田麗樹氏：
   NGC 3631 に出現した超新星1996年3月の発見
○天体観察功労賞2名
1）高見沢今朝雄氏：
   NGC 5061 に出現した超新星1996年1月の独立発見
2）岡崎雅美氏：
   NGC 673 に出現した超新星1996年1月の独立発見

日本天文学会林 忠四郎賞・欧文報告論文賞の贈呈
林忠四郎賞選考委員会の選考を経て、評議員会で、第1回林 忠四郎賞1件2名、欧文報告論文賞1件2名が決定された。
○林 忠四郎賞2名
1）小野義雄氏：宇宙背景放射ゆらぎの理論
2）佐々木 範氏：
○欧文報告論文賞2名
1）加藤太一氏：Discovery of a Peculiar SU UMa-Type Dwarf Nova ER Ursae Majoris
2）加藤 鯨亀：

月報だより

平成9年度会務報告
定款第36条に基づき、理事長（庶務理事が代行）により平成8年度の会務報告があり、原案通り可決された。
平成9年度会計報告
定款第9条に基づき、理事長（会計理事が代行）により平成8年度の会計作成報告があり、原案通り可決された。
平成9年度事業計画書
定款第41条に基づき、評議員会の審議を経た平成9年度事業計画書案が理事会（庶務理事が代行）より提出され、原案通り可決された。
平成9年度予算案
定款第9条に基づき、評議員会の議決を経た平成9年度予算案が理事会（会計理事が代行）より提出され、原案通り可決された。

日本天文学会役員の選任
定款第14条に基づき、原案通り新役員が選任された。
（文責：庶務理事：田中恵生）

資料1

社団法人 日本天文学会
平成8年度会務報告

平成8年度は会期2008年度、社団法人設立後63年
にあたる。

ア）出版物の刊行
1）欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan)
   第48巻第2号～第7号、第49巻第1号（1996年4月から7月25日発行）
2）天文月刊
   第89巻第4号～第90巻第3号まで（毎月発行）
3）年会予稿集
   1996年秋季年会、1997年春季年会

イ）年会の開催
1）1996年秋季年会
   ●記者会見：10月2日（木）水沢文化会館
   ●会場：10月3日（木）～5日（土）水沢文化会館
   参加者588名、講演数413（口頭210、口頭＋ポスター144、ポスター9）
   ●懸賞会：参加者2000名
   ●天文教育フォーラム：「大学入試における理科（地理）の位置付けと高校地学（天文）教育」
   ●公開講演会：10月6日（日）水沢文化会館
   「天の川の地図作り」
   笠尾哲夫（国立天文台教授）

第90巻 第7号

337
「銀河とブラックホール」

中井直正（国立天文台助教授）

2) 1997年春季大会

● 記者会見：3月19日（木） 東京大学（駒場）
● 年会：3月20日（木）～22日（土） 東京大学（駒場）

参加者621名，講演数402（口頭227，口頭+ポスター175）

● 慰問会：参加者約180名
● 天文教育フォーラム：「学校の日制，教科内容，教育はどうあるか？　— 天文学は物理学？　物理？　総合科目？」
● 公開講演会：3月23日（日） 東京大学（駒場）
「宇宙の進化を透る」

客 正則（国立天文台教授）

「星団と銀河の進化」

杉本大一郎（東京大学教授）

ウ）総会，評議員会，および理事会の開催

1) 総会

1996年10月4日 水沢会講堂
講題：平成7年度決算報告，定款改訂，他
1997年3月21日 東京大学（駒場）
講題：林 忠四郎賞，欧文報告論文賞，天体発見賞，今年度仮決算，来年度予算案，来
期の理事，定款改訂，他

2）評議員会

1996年6月1日 国立天文台三郷
議長：金崎洋二
講題：平成7年度決算報告，他
1996年10月4日 水沢市文化会館
議長：高橋哲夫
講題：平成7年度決算報告，内地留学生選考，他
1997年1月25日 国立天文台三郷
議長：高原文郎
講題：定款細則，学会評議員選挙，他
1997年2月22日 国立天文台三郷
議長：松田卓也
講題：平成8年度会務報告，仮決算報告，平成9年度事業計画，予算案，定款細則，林
忠四郎賞，欧文報告論文賞，天体発見賞，研究奨励賞，他
1997年3月21日 東京大学（駒場）
議長：祖父江義明
講題：総会議題，他

3) 理事会

1996年8月31日 国立天文台三郷
講題：平成7年度決算報告，定款改訂，臨時総
会開催，他
1996年10月5日 水沢市文化会館

議題：定款改訂，年会開催状況，次期年会，他
1997年2月15日 国立天文台三郷
講題：定款細則改訂，今年度仮決算，来年度予
算案，来期役員，他
1997年3月22日 東京大学（駒場）
講題：年会開催状況，役員引き継ぎ，他

エ）委員会，ワーキンググループ，その他

1）委員会関係

● 林 忠四郎賞選考委員会：林 忠四郎賞に小
玉英雄氏，佐々木 実氏を選出，欧文報告論文賞
に加藤太一氏，川村・クン・ジャヤ氏を候補
として推薦した。

● 天体発見賞選考委員会：天体発見賞に青木昌
勝，佐々木俊司，戸井幸夫，佐野和樹氏を，
天体発見功労賞に高見沢今朝雄，岡崎泰美氏を
候補として推薦した。

● 内地留学奨学金選考委員会：上田昌良氏に決定
した。

● 研究奨励賞選考委員会：審議未了のため授賞
を延期した。

● 早川幸男基金選考委員会：計10名を決定した。

2）ワーキンググループ関係

● ビデオ教材WG：ビデオ教材を企画，製作した。

3）選挙

● 学術評議員選挙：池内 了，小平桂一氏を
選出した（1月）

4）研究助成金

● 本会の推薦者に，吉井 謙氏に第37回東レ
科学技術研究助成金が贈られた。

5）会員名簿

● 会員名簿にメールアドレスを記載し，11月に
発行，配布した。

6）会員数（1997年4月1日現在）

<table>
<thead>
<tr>
<th>正会員(学生会員)</th>
<th>会員</th>
<th>団体会員</th>
<th>賛助会員</th>
<th>合 計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>'96.3.31</td>
<td>1,223(329)</td>
<td>1,583</td>
<td>0</td>
<td>52</td>
</tr>
<tr>
<td>退 会</td>
<td>92</td>
<td>52</td>
<td>0</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>移籍(増)</td>
<td>27</td>
<td>93</td>
<td>0</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>移籍(減)</td>
<td>7</td>
<td>24</td>
<td>45</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>'97.4.1</td>
<td>1,268(328)</td>
<td>1,517</td>
<td>45</td>
<td>53</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（文責：庶務理事 田中純生）
支出の部

<table>
<thead>
<tr>
<th>勘定科目</th>
<th>予算額</th>
<th>決算額</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>事業費</td>
<td>50,370,000</td>
<td>45,739,674</td>
</tr>
<tr>
<td>事務料費</td>
<td>24,350,000</td>
<td>23,928,920</td>
</tr>
<tr>
<td>掲載料</td>
<td>15,700,000</td>
<td>15,498,721</td>
</tr>
<tr>
<td>印刷物</td>
<td>1,500,000</td>
<td>2,843,465</td>
</tr>
<tr>
<td>消耗品</td>
<td>4,500,000</td>
<td>3,524,878</td>
</tr>
<tr>
<td>本桐</td>
<td>840,000</td>
<td>590,200</td>
</tr>
<tr>
<td>消耗品</td>
<td>1,600,000</td>
<td>1,393,149</td>
</tr>
<tr>
<td>会議費</td>
<td>200,000</td>
<td>76,498</td>
</tr>
<tr>
<td>雜費</td>
<td>10,000</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>天文月報発行事業費</td>
<td>17,620,000</td>
<td>15,650,876</td>
</tr>
<tr>
<td>会事業費</td>
<td>8,100,000</td>
<td>5,861,896</td>
</tr>
<tr>
<td>予稿集印刷費</td>
<td>3,400,000</td>
<td>2,488,340</td>
</tr>
<tr>
<td>会場費</td>
<td>1,200,000</td>
<td>1,109,780</td>
</tr>
<tr>
<td>会場費</td>
<td>900,000</td>
<td>343,874</td>
</tr>
<tr>
<td>消耗品</td>
<td>500,000</td>
<td>1,170,290</td>
</tr>
<tr>
<td>本桐</td>
<td>1,000,000</td>
<td>489,470</td>
</tr>
<tr>
<td>雜費</td>
<td>1,100,000</td>
<td>260,142</td>
</tr>
<tr>
<td>IAU総会開催事業費</td>
<td>300,000</td>
<td>300,000</td>
</tr>
<tr>
<td>借入金</td>
<td>300,000</td>
<td>300,000</td>
</tr>
<tr>
<td>管理費</td>
<td>22,090,000</td>
<td>21,689,331</td>
</tr>
<tr>
<td>人件費</td>
<td>7,600,000</td>
<td>7,772,049</td>
</tr>
<tr>
<td>論文金</td>
<td>600,000</td>
<td>288,290</td>
</tr>
<tr>
<td>打込み費</td>
<td>400,000</td>
<td>256,761</td>
</tr>
<tr>
<td>交通費</td>
<td>120,000</td>
<td>12,000</td>
</tr>
<tr>
<td>社会費</td>
<td>1,200,000</td>
<td>1,508,778</td>
</tr>
<tr>
<td>交通費</td>
<td>1,500,000</td>
<td>1,249,584</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>2,400,000</td>
<td>1,528,725</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>2,000,000</td>
<td>2,706,528</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>600,000</td>
<td>1,224,005</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>1,800,000</td>
<td>1,701,250</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>120,000</td>
<td>221,511</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>1,700,000</td>
<td>1,441,379</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>100,000</td>
<td>84,474</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>200,000</td>
<td>185,591</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>500,000</td>
<td>752,165</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>500,000</td>
<td>108,034</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>200,000</td>
<td>200,000</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>750,000</td>
<td>298,207</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>150,000</td>
<td>1,171,000</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>150,000</td>
<td>171,000</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>0</td>
<td>1,000,000</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>22,197,991</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>22,197,991</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>94,807,991</td>
<td>68,600,005</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>22,753,744</td>
<td>2,546,943</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>22,753,744</td>
<td>25,300,687</td>
</tr>
<tr>
<td>会計種目</td>
<td>科 目</td>
<td>予算額</td>
</tr>
<tr>
<td>----------</td>
<td>------</td>
<td>-------</td>
</tr>
<tr>
<td>学術交流費</td>
<td>賞金会費収入</td>
<td>2,000,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>収入利息</td>
<td>2,500</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>前期繰越収支差額</td>
<td>330,017</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>収入合計</td>
<td>2,332,517</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>支出の部</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>学術交流費</td>
<td>2,000,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>予備費</td>
<td>3,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>支出合計</td>
<td>2,003,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>次期繰越収支差額</td>
<td>329,517</td>
</tr>
<tr>
<td>内地留学奨学会</td>
<td>収入の部</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>基本財貯金利息収入</td>
<td>80,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>一般会計より繰入</td>
<td>200,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>前期繰越収支差額</td>
<td>11,278</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>収入合計</td>
<td>291,278</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>支出の部</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>奨学金支出</td>
<td>250,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>雑費</td>
<td>1,600</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>支出合計</td>
<td>251,600</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>次期繰越収支差額</td>
<td>39,678</td>
</tr>
<tr>
<td>研究奨励賞</td>
<td>収入の部</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>奨励賞金収入</td>
<td>200,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>収入利息</td>
<td>2,500</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>前期繰越収支差額</td>
<td>5,173,246</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>収入合計</td>
<td>5,375,746</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>支出の部</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>奨励賞支出</td>
<td>100,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>雑費</td>
<td>2,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>支出合計</td>
<td>102,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>次期繰越収支差額</td>
<td>5,273,746</td>
</tr>
<tr>
<td>早川幸男基金</td>
<td>収入の部</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>寄付金収入</td>
<td>100,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>収入利息</td>
<td>10,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>前期繰越収支差額</td>
<td>14,798,889</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>収入合計</td>
<td>14,908,889</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>支出の部</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>研究補助支出</td>
<td>1,500,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>雑費</td>
<td>10,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>支出合計</td>
<td>1,510,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>次期繰越収支差額</td>
<td>13,398,889</td>
</tr>
<tr>
<td>林 忠男遺員</td>
<td>収入の部</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>寄付金収入</td>
<td>20,000,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>収入利息</td>
<td>300,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>収入合計</td>
<td>20,300,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>支出の部</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>林賞支出</td>
<td>500,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>雑費</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>支出合計</td>
<td>500,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>次期繰越収支差額</td>
<td>19,600,000</td>
</tr>
</tbody>
</table>

新たな収支計算書による財務報告書を参考に、関係書類とともにその内容を監査した結果、法令および定款に照らして正当であることを認めた。

平成9年4月24日 社団法人日本天文学会
監事 前原英夫 監事 野本憲一
<table>
<thead>
<tr>
<th>資産の部</th>
<th>勘定科目</th>
<th>金額（単位：円）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>流動資産</td>
<td>現金預金</td>
<td>24,685,647</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>未収会費</td>
<td>2,993,206</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>貯蔵品</td>
<td>1,823,001</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>有価証券</td>
<td>5,500,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>未収金</td>
<td>1,093,152</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>仮払金</td>
<td>100,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>流動資産合計</td>
<td>36,141,005</td>
</tr>
<tr>
<td>固定資産</td>
<td>投資有価証券</td>
<td>5,000,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>その他の固定資産</td>
<td>3,873,256</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>什器備品</td>
<td>171,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>退職給与引当金</td>
<td>1,000,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>減価償却引当金</td>
<td>10,044,256</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>固定資産合計</td>
<td>46,185,261</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>負債及び正味財産の部</th>
<th>勘定科目</th>
<th>金額（単位：円）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>流動負債</td>
<td>未収金</td>
<td>125,154</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>預り金</td>
<td>2,162,954</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>前受金</td>
<td>990,659</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>前受会費</td>
<td>5,738,350</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>流動負債合計</td>
<td>9,017,317</td>
</tr>
<tr>
<td>固定負債</td>
<td>退職給与引当金</td>
<td>171,000</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>負債合計</td>
<td>9,188,317</td>
</tr>
<tr>
<td>正味財産</td>
<td>(うち、基本財産)</td>
<td>36,996,944</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(うち、期次増加財産)</td>
<td>(5,000,000)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(うち、当期増加財産)</td>
<td>(5,394,251)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>正味財産合計</td>
<td>36,996,944</td>
</tr>
</tbody>
</table>

| 学術交流費 | | 484,417 |
| 資産合計    | | 484,417 |

| 地域留学奨学金 | | 4,318,636 |
| 資産合計        | | 4,318,636 |

| 研究奨励費 | | 5,383,414 |
| 資産合計       | | 5,383,414 |

| 早川幸男基金 | | 17,429,655 |
| 資産合計          | | 17,429,655 |

| 林忠四郎賞     | | 16,631,082 |
| 資産合計           | | 16,631,082 |

(注) 基本金（基本財産）たる資産：投資有価証券 9,310,000 円
預り金の内消費税 2,130,454 円（うち当期消費税 949,516 円）
日本天文学会委員（1997–1998）

PASJ 秘書：ichi 了、福岡啓子、尾崎洋二、木下俊、桜井 隆、佐藤勝彦、佐藤文隆、祖父江義明、田原博人、長瀬文昭

PASJ 秘書委員会：村本信雄（委員長）、江里口良治、大橋隆哉、柴橋博資、中井正直、中村士、秋野庸一郎

天文月報編集委員会：末松芳法（委員長）、上野宗孝、大橋正健、小谷太郎、辻本拓司、野口邦男、平野尚美、宮坂正大

年会実行委員会：加藤万里子（委員長）、坂尾太郎、茂山俊和、花見仁史、浜部勝

教育委員会：沢 武文（委員長）、森 秀彦、細部朋生、小杉健雄、毛利勝徳、山本明彦

評議員選挙管理委員会：野口邦男（委員長）、梅本智文、大橋正健、高橋竜太郎、西川淳

林忠四郎選挙考査委員会：杉本大一郎（委員長）、井上允、尾崎洋二、小平佳一、佐藤文隆、奥野治之（理事長）

研究奨励賞選考委員会：江里口良治（委員長）、大橋隆哉、中井正直、林正彦、福島登志夫

天体発見賞選挙委員会：渡部潤一（委員長）、西城恵一、中野主一、中村士、山間均

内地留学奨学金選考委員会：村田仁一郎（委員長）、黒田武彦、西城恵一、鈴木文二、田中浩

早川基金選考委員会：福島登志夫（委員長）、後崎俊一、大橋隆哉、谷口義明、長谷川哲夫

ネットワーク委員会：田中浩生（委員長）、鈴木知治

日本天文学会委員（1997–1998）

PASJ 編集：池内 了、福岡啓子、尾崎洋二、木下俊、桜井 隆、佐藤勝彦、佐藤文隆、祖父江義明、田原博人、長瀬文昭

PASJ 編集委員会：村本信雄（委員長）、江里口良治、大橋隆哉、柴橋博資、中井正直、中村士、秋野庸一郎

天文月報編集委員会：末松芳法（委員長）、上野宗孝、大橋正健、小谷太郎、辻本拓司、野口邦男、平野尚美、宮坂正大

年会実行委員会：加藤万里子（委員長）、坂尾太郎、茂山俊和、花見仁史、浜部勝

教育委員会：沢 武文（委員長）、森 秀彦、細部朋生、小杉健雄、毛利勝徳、山本明彦

評議員選挙管理委員会：野口邦男（委員長）、梅本智文、大橋正健、高橋竜太郎、西川淳

林忠四郎選挙考査委員会：杉本大一郎（委員長）、井上允、尾崎洋二、小平佳一、佐藤文隆、奥野治之（理事長）

研究奨励賞選考委員会：江里口良治（委員長）、大橋隆哉、中井正直、林正彦、福島登志夫

天体発見賞選挙委員会：渡部潤一（委員長）、西城恵一、中野主一、中村士、山間均

内地留学奨学金選考委員会：村田仁一郎（委員長）、黒田武彦、西城恵一、鈴木文二、田中浩

早川基金選考委員会：福島登志夫（委員長）、後崎俊一、大橋隆哉、谷口義明、長谷川哲夫

ネットワーク委員会：田中浩生（委員長）、鈴木知治

日本天文学会委員（1997–1998）

PASJ 編集：池内 了、福岡啓子、尾崎洋二、木下俊、桜井 隆、佐藤勝彦、佐藤文隆、祖父江義明、田原博人、長瀬文昭

PASJ 編集委員会：村本信雄（委員長）、江里口良治、大橋隆哉、柴橋博資、中井正直、中村士、秋野庸一郎

天文月報編集委員会：末松芳法（委員長）、上野宗孝、大橋正健、小谷太郎、辻本拓司、野口邦男、平野尚美、宮坂正大

年会実行委員会：加藤万里子（委員長）、坂尾太郎、茂山俊和、花見仁史、浜部勝

教育委員会：沢 武文（委員長）、森 秀彦、細部朋生、小杉健雄、毛利勝徳、山本明彦

評議員選挙管理委員会：野口邦男（委員長）、梅本智文、大橋正健、高橋竜太郎、西川淳

林忠四郎選挙考査委員会：杉本大一郎（委員長）、井上允、尾崎洋二、小平佳一、佐藤文隆、奥野治之（理事長）

研究奨励賞選考委員会：江里口良治（委員長）、大橋隆哉、中井正直、林正彦、福島登志夫

天体発見賞選挙委員会：渡部潤一（委員長）、西城恵一、中野主一、中村士、山間均

内地留学奨学金選考委員会：村田仁一郎（委員長）、黒田武彦、西城恵一、鈴木文二、田中浩

早川基金選考委員会：福島登志夫（委員長）、後崎俊一、大橋隆哉、谷口義明、長谷川哲夫

ネットワーク委員会：田中浩生（委員長）、鈴木知治

日本天文学会委員（1997–1998）

PASJ 編集：池内 了、福岡啓子、尾崎洋二、木下俊、桜井 隆、佐藤勝彦、佐藤文隆、祖父江義明、田原博人、長瀬文昭

PASJ 編集委員会：村本信雄（委員長）、江里口良治、大橋隆哉、柴橋博資、中井正直、中村士、秋野庸一郎

天文月報編集委員会：末松芳法（委員長）、上野宗孝、大橋正健、小谷太郎、辻本拓司、野口邦男、平野尚美、宮坂正大

年会実行委員会：加藤万里子（委員長）、坂尾太郎、茂山俊和、花見仁史、浜部勝

教育委員会：沢 武文（委員長）、森 秀彦、細部朋生、小杉健雄、毛利勝徳、山本明彦

評議員選挙管理委員会：野口邦男（委員長）、梅本智文、大橋正健、高橋竜太郎、西川淳

林忠四郎選挙考査委員会：杉本大一郎（委員長）、井上允、尾崎洋二、小平佳一、佐藤文隆、奥野治之（理事長）

研究奨励賞選考委員会：江里口良治（委員長）、大橋隆哉、中井正直、林正彦、福島登志夫

天体発見賞選挙委員会：渡部潤一（委員長）、西城恵一、中野主一、中村士、山間均

内地留学奨学金選考委員会：村田仁一郎（委員長）、黒田武彦、西城恵一、鈴木文二、田中浩

早川基金選考委員会：福島登志夫（委員長）、後崎俊一、大橋隆哉、谷口義明、長谷川哲夫

ネットワーク委員会：田中浩生（委員長）、鈴木知治
## [資料4]
平成9年度 収支予算書
（平成9年4月1日～平成9年10月31日）

【一般会計】

### 1）収入の部

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>予算額</th>
<th>前年度予算額</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>勘定科目</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>大・中・小科目</td>
<td>予算額</td>
<td>前年度予算額</td>
</tr>
<tr>
<td>基本財産運用収入</td>
<td>600,000</td>
<td>115,000</td>
</tr>
<tr>
<td>基本財産利息収入</td>
<td>600,000</td>
<td>115,000</td>
</tr>
<tr>
<td>会費収入</td>
<td>25,088,000</td>
<td>33,350,000</td>
</tr>
<tr>
<td>正会員会費収入（学生）</td>
<td>15,300,000</td>
<td>20,470,000</td>
</tr>
<tr>
<td>正会員会費収入（学生）</td>
<td>11,800,000</td>
<td>15,660,000</td>
</tr>
<tr>
<td>正会員会費収入（学生）</td>
<td>3,500,000</td>
<td>4,810,000</td>
</tr>
<tr>
<td>準会員会費収入</td>
<td>9,450,000</td>
<td>12,880,000</td>
</tr>
<tr>
<td>団体会員会費収入</td>
<td>338,000</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>事業収入</td>
<td>17,735,000</td>
<td>26,620,000</td>
</tr>
<tr>
<td>文書研究報告発行事業収入</td>
<td>11,340,000</td>
<td>15,320,000</td>
</tr>
<tr>
<td>購読料</td>
<td>4,170,000</td>
<td>5,000,000</td>
</tr>
<tr>
<td>銀行預金</td>
<td>5,250,000</td>
<td>6,400,000</td>
</tr>
<tr>
<td>勘定科目</td>
<td>1,920,000</td>
<td>2,920,000</td>
</tr>
<tr>
<td>天文月報発行事業収入</td>
<td>3,620,000</td>
<td>6,150,000</td>
</tr>
<tr>
<td>購読料</td>
<td>760,000</td>
<td>950,000</td>
</tr>
<tr>
<td>勘定科目</td>
<td>260,000</td>
<td>500,000</td>
</tr>
<tr>
<td>年会事業収入</td>
<td>2,600,000</td>
<td>4,700,000</td>
</tr>
<tr>
<td>紙幅広報事業収入</td>
<td>2,775,000</td>
<td>5,150,000</td>
</tr>
<tr>
<td>学術事務費</td>
<td>1,100,000</td>
<td>1,800,000</td>
</tr>
<tr>
<td>参加費</td>
<td>1,500,000</td>
<td>3,000,000</td>
</tr>
<tr>
<td>雑費</td>
<td>175,000</td>
<td>350,000</td>
</tr>
<tr>
<td>印税収入</td>
<td>1,800,000</td>
<td>2,900,000</td>
</tr>
<tr>
<td>星座見本印刷費</td>
<td>1,500,000</td>
<td>1,900,000</td>
</tr>
<tr>
<td>その他の印刷費</td>
<td>300,000</td>
<td>1,000,000</td>
</tr>
<tr>
<td>補助金収入</td>
<td>5,200,000</td>
<td>6,700,000</td>
</tr>
<tr>
<td>文部省行補助金収入</td>
<td>4,000,000</td>
<td>4,300,000</td>
</tr>
<tr>
<td>購読料</td>
<td>1,200,000</td>
<td>2,400,000</td>
</tr>
<tr>
<td>寄付金収入</td>
<td>50,000</td>
<td>300,000</td>
</tr>
<tr>
<td>寄付金収入</td>
<td>50,000</td>
<td>300,000</td>
</tr>
<tr>
<td>雑費</td>
<td>1,135,000</td>
<td>1,625,000</td>
</tr>
<tr>
<td>受取利息</td>
<td>35,000</td>
<td>125,000</td>
</tr>
<tr>
<td>特別企画収入</td>
<td>200,000</td>
<td>500,000</td>
</tr>
<tr>
<td>その他の収入</td>
<td>900,000</td>
<td>1,000,000</td>
</tr>
<tr>
<td>紹入金収入</td>
<td>607,326</td>
<td>444,247</td>
</tr>
<tr>
<td>紹入金収入</td>
<td>607,326</td>
<td>444,247</td>
</tr>
<tr>
<td>当期収入合計（A）</td>
<td>51,675,326</td>
<td>72,054,247</td>
</tr>
<tr>
<td>前期繰越収支差額</td>
<td>25,300,687</td>
<td>22,753,744</td>
</tr>
<tr>
<td>収入合計（B）</td>
<td>76,976,013</td>
<td>94,807,991</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### II）支出の部

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>予算額</th>
<th>前年度予算額</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>勘定科目</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>大・中・小科目</td>
<td>予算額</td>
<td>前年度予算額</td>
</tr>
<tr>
<td>事業費</td>
<td>36,230,000</td>
<td>50,370,000</td>
</tr>
<tr>
<td>文書研究報告発行事業費</td>
<td>19,160,000</td>
<td>24,350,000</td>
</tr>
<tr>
<td>直接出版費</td>
<td>12,830,000</td>
<td>15,700,000</td>
</tr>
<tr>
<td>別刷り印刷費</td>
<td>770,000</td>
<td>1,500,000</td>
</tr>
<tr>
<td>人件費</td>
<td>3,400,000</td>
<td>4,500,000</td>
</tr>
<tr>
<td>賞金</td>
<td>790,000</td>
<td>840,000</td>
</tr>
<tr>
<td>送信運搬費</td>
<td>1,100,000</td>
<td>1,600,000</td>
</tr>
<tr>
<td>消耗品費</td>
<td>200,000</td>
<td>200,000</td>
</tr>
<tr>
<td>雑費</td>
<td>50,000</td>
<td>10,000</td>
</tr>
<tr>
<td>天文月報発行事業費</td>
<td>13,270,000</td>
<td>17,620,000</td>
</tr>
<tr>
<td>直接出版費</td>
<td>7,700,000</td>
<td>11,000,000</td>
</tr>
<tr>
<td>別刷り印刷費</td>
<td>320,000</td>
<td>420,000</td>
</tr>
<tr>
<td>人件費</td>
<td>900,000</td>
<td>800,000</td>
</tr>
<tr>
<td>賞金</td>
<td>1,800,000</td>
<td>1,800,000</td>
</tr>
<tr>
<td>送信運搬費</td>
<td>2,000,000</td>
<td>3,000,000</td>
</tr>
<tr>
<td>消耗品費</td>
<td>400,000</td>
<td>500,000</td>
</tr>
<tr>
<td>雑費</td>
<td>150,000</td>
<td>100,000</td>
</tr>
<tr>
<td>年会事業費</td>
<td>3,500,000</td>
<td>8,100,000</td>
</tr>
<tr>
<td>紙幅広報印刷費</td>
<td>1,300,000</td>
<td>3,400,000</td>
</tr>
<tr>
<td>賞金</td>
<td>600,000</td>
<td>1,200,000</td>
</tr>
<tr>
<td>送信運搬費</td>
<td>300,000</td>
<td>900,000</td>
</tr>
<tr>
<td>会場費</td>
<td>700,000</td>
<td>500,000</td>
</tr>
<tr>
<td>消耗品費</td>
<td>300,000</td>
<td>1,000,000</td>
</tr>
<tr>
<td>雑費</td>
<td>300,000</td>
<td>1,100,000</td>
</tr>
<tr>
<td>IAU総会開催事業費</td>
<td>300,000</td>
<td>300,000</td>
</tr>
<tr>
<td>準備費</td>
<td>300,000</td>
<td>300,000</td>
</tr>
<tr>
<td>管理理賛</td>
<td>14,940,000</td>
<td>22,090,000</td>
</tr>
<tr>
<td>人件費</td>
<td>6,300,000</td>
<td>7,600,000</td>
</tr>
<tr>
<td>賞金</td>
<td>260,000</td>
<td>600,000</td>
</tr>
<tr>
<td>賞金</td>
<td>200,000</td>
<td>400,000</td>
</tr>
<tr>
<td>賞金</td>
<td>150,000</td>
<td>120,000</td>
</tr>
<tr>
<td>租税公課</td>
<td>1,500,000</td>
<td>1,200,000</td>
</tr>
<tr>
<td>旅費交通費</td>
<td>800,000</td>
<td>1,500,000</td>
</tr>
<tr>
<td>往返運搬費</td>
<td>900,000</td>
<td>2,400,000</td>
</tr>
<tr>
<td>什器備品費</td>
<td>1,500,000</td>
<td>2,000,000</td>
</tr>
<tr>
<td>消耗品費</td>
<td>600,000</td>
<td>600,000</td>
</tr>
<tr>
<td>印刷製本費</td>
<td>400,000</td>
<td>1,600,000</td>
</tr>
<tr>
<td>光熱水料費</td>
<td>180,000</td>
<td>120,000</td>
</tr>
<tr>
<td>保険料</td>
<td>1,150,000</td>
<td>1,700,000</td>
</tr>
<tr>
<td>評価手数料</td>
<td>100,000</td>
<td>100,000</td>
</tr>
<tr>
<td>書籍購入費</td>
<td>400,000</td>
<td>200,000</td>
</tr>
<tr>
<td>特別企画費</td>
<td>100,000</td>
<td>500,000</td>
</tr>
<tr>
<td>内地留学奨学金</td>
<td>200,000</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>雑費</td>
<td>250,000</td>
<td>750,000</td>
</tr>
<tr>
<td>基本金支出</td>
<td>3,000,000</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>基本金支出</td>
<td>3,000,000</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>特定預金支出</td>
<td>671,000</td>
<td>150,000</td>
</tr>
<tr>
<td>減価償却引当金支出</td>
<td>500,000</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>退職給与引当金支出</td>
<td>171,000</td>
<td>150,000</td>
</tr>
<tr>
<td>預備費</td>
<td>22,135,013</td>
<td>22,197,991</td>
</tr>
<tr>
<td>預備費</td>
<td>22,135,013</td>
<td>22,197,991</td>
</tr>
<tr>
<td>当期支出合計（C）</td>
<td>76,976,013</td>
<td>94,807,991</td>
</tr>
<tr>
<td>当期収支差額（A-C）</td>
<td>25,300,687</td>
<td>22,753,744</td>
</tr>
<tr>
<td>次期繰越収支差額（B-C）</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
</tr>
</tbody>
</table>
### 日本天文学会 1997 年秋季年会の開催と講演の申し込みについて

秋季年会は 1997 年 9 月 29 日(月)から 10 月 1 日(水)までの 3 日間、宇都宮大学にて開催します。前回と比べて講演申し込み期間が早くなっていますのでご注意下さい。

#### 講演の申し込み

講演の申し込みは「〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 日本天文学会年会係」にて封筒の裏に「講演申し込書在中」と朱書の上、7 月 9 日(木)までに必ずするよう規定の年会予稿原稿用紙（本号には見込み）を用いてお送りください。

e-mail での投稿受付は、7 月 4 日朝 9 時〜7 月 10 日朝 9 時とします。非会員からの e-mail での予稿も受け付けます。e-mail での予稿の書き方、送り方およびフォーマットは tennis を通じて連絡します。tennis から直接情報を入手できない方は tennis 加入者にお聞きください。さらに、WWW にも掲載します。直接学会事務局へのお問い合わせはお答えできません。郵送と e-mail との重複の申し込は固くお断りします。

さらにプログラムを WWW 上に掲載します。e-mail 投稿による予稿本体も、プログラムと同様に WWW 上に掲載しますので、支障のある方は前もってお申し出下さい。

講演は「口頭発表（講演 10 分）」及び「口頭発表（3 分）＋ポスター発表」にて行いますので、希望の発表形態を選択して下さい。口頭発表（3 分）の質疑応答は数講演を一括して時間で行います。また、筆頭講演者の複数講演が可能です。ただし、2 つ目以降の講演は「口頭発表（3 分）＋ポスター発表」とします。

Post-deadline papers も受け付けます。これは、単に講演の繰切日に間に合わせなかったものではなく、IAU Circular に掲載されるような緊急性、トピック性に富んだものに限定し、9 月 24 日(木)まで受け付けます。講演方法はポスター発表となります。

講演分野の分類は以下の 15 通りです。

| 位置天文鉱 | 太陽系 | 太陽 | 星系 | 銀河 | 恒星 | 行星 | 半導体 | 量子計算 | 電子防衛 | 焼結 | 非線形 | 量子コンピュータ | ソフトウェア | ソフトウェア | ソフトウェア | ソフトウェア | ソフトウェア |
|------------|--------|------|------|------|------|------|------|----------|----------|------|------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 位置天文鉱 | 太陽系 | 太陽 | 星系 | 銀河 | 恒星 | 行星 | 半導体 | 量子計算 | 電子防衛 | 焼結 | 非線形 | 量子コンピュータ | ソフトウェア | ソフトウェア | ソフトウェア | ソフトウェア | ソフトウェア |
| 位置天文鉱 | 太陽系 | 太陽 | 星系 | 銀河 | 恒星 | 行星 | 半導体 | 量子計算 | 電子防衛 | 焼結 | 非線形 | 量子コンピュータ | ソフトウェア | ソフトウェア | ソフトウェア | ソフトウェア | ソフトウェア |
| 位置天文鉱 | 太陽系 | 太陽 | 星系 | 銀河 | 恒星 | 行星 | 半導体 | 量子計算 | 電子防衛 | 焼結 | 非線形 | 量子コンピュータ | ソフトウェア | ソフトウェア | ソフトウェア | ソフトウェア | ソフトウェア |

なお申し込みの分野の分類に従って、プログラム編成のため、内容を最もよく表すキーワードをご記入下さい（例：恒星(内部振動)）。

講演申込み・発表に際しては特に次の事項を厳守して下さい。
1. 講演内容は完成度の高い研究とする。
2. 適合の場合は、発表者を講演者の筆頭におく。
3. 口頭発表においては、オーバーヘッドプロジェクトを使用すること。
4. ビデオプロジェクトの使用（10 分講演のみ可能）を希望される方は年会申し込み用紙に○印をつけて下さい。
5. スライドの使用は原則として考えていませんが、どうしてという方は、年会実行委員長（加藤万里子）まで前もって連絡してください。
6. 郵送による申し込みの際、原稿をセロテープ、メンディングテープなどで張りつけることはせずに、必ず糊をお使いください。

なお、近年、講演のキャンセルが増えています。理由のいかんにせよ、これ以上キャンセルが増えると、年会の運営に支障をきたすためで、慎重にお申し込み下さい。

年会は、主として会員の研究発表や情報交換を通じて天文学の発展に寄与するものです。非会員の方で講演を希望される方には、申し込みの際に入会をお勧めしております。

【年会出席旅費補助】
講演申し込み者で年会出席旅費の補助を希望される会員、7月9日（水）までに希望するよう日本天文学会に申し込んで下さい。ただし申し込みのできる人は、1997年度会費納入済みの方で、連名の場合は筆頭講演者であり、正式の会員の受けていない正会員学生会費納入者に限ります。尚、出席は年会終了にてお渡し致しますので印鑑をご持参下さい。年会終了後にお渡しできません。

【参加費等の支払い方法】
講演の申し込みには講演登録料が必要です。ただし、会員の種別によらず、1講演につき講演登録料が免除となります。

- 年会参加費 3,000 円（正会員（学生）は 2,000 円）
- 年会講演登録料 3,000 円
- 年会予稿集 2,000 円

1）年会参加費及び年会講演登録料は年会実会場でお支払いください。
2）年会講演登録料は、講演を複数回申し込まれた方の、2講演目からの1講演あたりの金額です。
3）予稿集（2,000 円／冊（含消費税））送金は会員には不要。非会員は実費を購入希望の方は、1997年秋季年会予稿集希望と明記の上、郵便振替は 00160-1-13595 社団法人 日本天文学会 現金書留は 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1